

ひまわり



令和3年5月17日(月)

地下鉄のバイオリン弾き



先日、TBSのモニタリングという番組を見ていました。米米CLUBの石井竜也さんが、米問屋の会長に扮して出てきました。そして人前で、カラオケの練習と称して、わざと調子外れの歌を披露します。その後、本気でプロの美声を響かせ、聞いている人を驚かせるというものでした。

日本では、このような「ドッキリ」をテレビ番組で見かけることがあります。しかし、新聞社がこのような企画をすることはまずありません。

アメリカのワシントンD.C.に、ワシントン・ポストという新聞社があります。2013年、Amazon.comの創業者であるジェフ・ベゾス氏が買収したことで有名ですが、世界的影響力を持つ新聞社です。2007年、同社は興味深いドッキリ実験を行いました。

一人の青年が、ある地下鉄の駅で降りました。ジーンズに長袖のTシャツ、野球帽というラフな格好。駅の壁を背にして立った青年は、小さなケースからバイオリンを取り出しました。ケースに見せ金の小銭を入れて通行人のほうに向けると、バイオリンを弾きはじめました。時間帯は平日の午前8時前。朝のラッシュアワーの真っ最中です。多くの人が慌ただしく通り過ぎていきます。この後、彼はクラシック音楽を6曲演奏し、1097人がその前を通り過ぎました。しかし、彼の正体に気づいたのはたった一人でした。彼の正体は、世界的バイオリニストのジョシュア・ベル。手にしていた楽器は、日本円で4億円近くもするものでした。この実験は、人の「美を鑑賞する状況」「物事の優先順位」「美を見分けるための力」について考察する実験だったのです。

この実験から分かったことは、「人は予想外のところで予想外のことに会おうとその価値に気づかないことがある」「人は他のことに気を取られていると、目の前の素晴らしいものが見えなくなる」ということです。

この実験のように、私たちは、慌ただしく流れていく時間の中で、ややもすれば本当に素晴らしいものを見逃していることがあるかもしれません。本当に素晴らしいものとは、「自然の美」「優しさ」「友情」「感謝の念」など、多くの事柄があるでしょう。このような事柄に気づくためには、日頃から心の余裕を大切に、素直な心で物事を受け入れ、美しいもの素晴らしいものを感じとる感性に磨きをかけることが大切なのではないでしょうか。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

